

令和2年 謹賀新年



福岡県労福協
理事長 西村 芳樹

新年明けましておめでとうございます。旧年中は福岡県労福協に対します格別のご支援・ご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

福岡県労福協は、2014年度、一般社団法人への移行計画の申請をして、公益目的事業を進めてきましたが、ようやく2020年度で公益目的支出計画が完了することになります。そのため、福岡県労福協として、2020年を移行最終年として、これまで以上に「ライフサポート事業・ふくおか」を中核に公益目的事業を着実に推進していくつもりです。

また、労働者の福祉を目的とする団体で、事業を進めるにあたっては、連合、ろうきん、こくみん共済coop、生協連などの労働団体や事業福祉団体とさらに連携を深め、労働者の福祉向上に努めてまいります。

さて、福岡県労福協は、2018年に続き、2019年も中央労福協による全国福祉強化キャンペーンの一斉行動として、奨学金制度改善・教育費負担軽減の取り組みを展開しました。今回は、電話による「奨学金制度に関する一斉相談会」でなく、誰もが気楽に相談できるようにWEBを活用してメールによる相談を実施しました。その結果、相談件数は増加し、地域、社会へアピールするとともに、世論喚起による教育費の負担軽減に向けた制度改善に繋げる取り組みが出来ました。更には、地域で働く人・生活者が生き生きと働き暮らし続けるために、福岡地域労福協と協賛で持ち出しの「ライフサポート相談会」を2回開催し、相談事業の充実と拡大にも努めてきました。これもひとえに、会員団体をはじめ、多くの関係諸団体のご協力・ご支援の賜物と感謝申し上げます。

今、世界的に議論的となっているのが、格差の問題です。ごく一部の富裕層が、全体の富の大部分を所有し、一般的な労働者との間で深刻な所得格差が生まれています。日本においても、そうした問題は日に日に増大し、重大な社会問題となりつつあるのが現状です。こうした日本で所得格差が広がっていく原因として、富裕層と貧困層との教育の格差が挙げられます。高い教育を受けた裕福な家庭の子供は、その分高収入な仕事に就ける機会が増え、一方、教育のレベルに限られる貧困家庭の子供は、そうしたチャンスを失うこととなります。そして、このサイクルが世代間で繰り返されることにより、所得格差が固定化・拡大してしまうというわけです。また、もうひとつ所得格差拡大の要因として、少子高齢化の問題があります。現在、我が国では、出生率の低下による少子化とともに、高齢者人口の増加が問題となっています。日本では60歳ごろから定年となる会社が主流ですが、言うまでもなく、定年後は年金が収入の大半となります。つまり、年金に頼る高齢者は、必然的に低所得者になってしまうわけです。その一方で、一部には会社役員などに就任し、高齢でも高い収入を維持し続ける人もいます。こうしたことが、日本で格差が広がってしまう原因の1つになっています。しかも、こうした高齢者層はどんどん増加しており、高齢化率(65歳以上の人口が総人口に占める割合)は、2040年がそのピークになると言われています。このため、高齢化社会の進行と共に、ますます所得格差が広がっていくと思われます。

福岡県労福協は、そういった課題を克服するため、今年も様々な団体とネットワークを広げ、私たちが取り組んでいるライフサポート事業を中心に、働く人・地域の人たちの拠り所として、さらに機能を強化する取り組みを展開していきます。本年も、労福協が目指す「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」実現に向けて、共に頑張りましょう。



労働者福祉中央協議会
会長 神津 里季生

新年明けましておめでとうございます。

中央労福協は昨年、結成70周年を迎え、11月の総会で「労福協の理念」と今後の活動の指針となる「2030年ビジョン」を決定しました。私たちは、これに基づき、すべての働く人の幸せと豊かさをめざし、連帯・協同の力で「安心・共生の福祉社会」を実現するための取り組みを進めていきます。

今こそ、貧困をなくし「誰ひとり取り残さない」包摂的で持続可能な社会をめざすSDGsの目標達成や、「助け合い・支え合い」を社会に根づかせていくために、私たちが真価を発揮する時です。労働運動と労働者福祉事業の「ともに運動する」関係を強化し、多様なセーフティネットや共助の輪を広げ、安心して働き暮らせる社会をつくりましょう。

これからも「福祉はひとつ」という労福協の原点を大切に、それぞれの多様性を認め合いながら、様々なネットワークで「つながる運動」を広げ、ともに新しい社会や時代を切り拓いていきましょう！



福岡県知事
小川 洋

新年あけましておめでとうございます。

福岡県労働者福祉協議会の皆さまには、日ごろから労働者福祉の向上にご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

私たちは、今、急速に進む少子高齢化と人口減少、最新技術による新たな産業革命の進展、人生100年時代の到来など、大きな変化に直面しています。これらを的確に捉え、対応していかなければなりません。

その基本は「地方創生」です。誰もが住み慣れたところで働き、長く元気に暮らし、安心して子どもを産み育てることができる地域社会づくりを進めていきます。

中でも「働く」、これにつながる雇用は、県民の皆さまの暮らしを支える基本です。地域に「魅力ある職場」をつくっていくため、中小企業の振興や先端成長産業の育成を加速します。また、働き方改革を通じ、多様な人材が活躍できる魅力ある職場づくりを推進するとともに、年代別・対象別就職支援センターの支援を通じて就職を後押ししていきます。

本年も、県民の皆さまの雇用を守り、安定した生活を送っていただけるよう全力を尽くしてまいります。ご支援、ご理解を賜りますようお願いいたします。

新年が皆さまにとって、素晴らしい一年となりますよう心からお祈りいたします。



九州労働金庫福岡県本部
本部長 梶原 正実

新年明けましておめでとうございます。旧年中は九州労働金庫の推進にあたり、皆様方のご理解とご支援をいただき、厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

マイナス金利政策下において、今までにない厳しい金融情勢の中、九州労働金庫は、第6期中期経営計画で掲げたスローガン～「つながるろうきん～「はたらく人」につながる・「地域社会」につながる・「未来」につながるろうきんをめざして取り組んでいます。これからははたらく人にとってもっとも身近な金融機関として、会員との連携を深めて、組合員のニーズに合わせた提案型営業の推進を強化し、組合員の生活設計・生活改善・生活防衛のとりくみを推進していきます。

本年も「会員・組合員のお役に立つろうきんへ」「すべてのはたらく人のお役に立つろうきんへ」「地域社会のお役に立つろうきんへ」の3つのとりくみをもとに、会員と協働した「しあわせ創造運動」を積極的に展開し、福祉金融機関としての社会貢献活動を展開していきます。私を含めた役職員一同、労働金庫としての姿勢や仕事を厳しく見つめなおし、また新たな気持ちでチャレンジし続けたいと決意しているところです。

2020年が会員、組合員およびご家族のみなさん、そしてすべてのはたらく人にとって良い年になることを祈念申し上げて年頭のご挨拶とします。今年もどうぞよろしくお願い致します。



こくみん共済 coop
福岡推進本部
本部長 佐田 正二

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、こくみん共済 coopの諸活動に対しまして、格別のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年も多くの自然災害が発生し、多くの組合員の皆さまが被災された厳しい1年でした。

とくに福岡推進本部では、台風17号による被災された組合員へ一日でも早く共済金をお支払いできるように、9月より役職員一同総力を挙げて被災者対応をすすめてまいりました。

今年は災害のない一年でありますことを心から願ってやみません。

さて、私たちは、2019年6月に新しい姿をあらわす愛称として「こくみん共済 coop」に変わりました。

「こくみん共済 coop」とは、単なる商品名称を愛称としたのではなく、労働者自主福祉運動を核としながら、その取り組みをさらに広げ「こくみん＝みんなのために」「共済＝助け合いの仕組みを提供する」「協同組合(coop)である」ことを表しています。

これからも組合員・協力団体の皆さまへ「共感・参加・信頼」による価値観を共有化し、より魅力的な「保障の生協」を目指して、福岡推進本部役職員一丸となって努力を続けてまいりますので、引き続き格別のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。



福岡県生協連
会長理事 堤 新吾

新年あけましておめでとうございます。

日頃より、福岡県生協連並びに会員生協の事業・活動へのご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、世界は地球温暖化による気候変動や水資源の枯渇、プラスチックごみの海洋汚染などの環境問題、貧困や飢餓の問題、ジェンダー（性）に基づく偏見や不平等の問題など、今なおさまざまな問題を抱えています。福岡県生協連は、2015年に国連で採択された「SDGs（持続可能な開発目標）」の実現に向け、協同組合活動・協同組合間連携により、地域の課題解決に向けて取り組んでいます。

東日本大震災から9年が経とうとしています。復興は道半ばです。昨年は、8月の九州北部豪雨、9月の台風15号、台風19号による甚大な災害が広い地域で発生しました。こうした度重なる災害に対し、全国の生協は、地域の諸団体と連携し、被災地、被災者に寄り添いながら継続して支援活動に取り組んでいます。

生協は、「助け合いの組織」として、地域社会を支え、地域コミュニティに参加する取り組みを、今後も積極的に強めてまいります。この一年が皆様にとって実り多い年になりますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



北九州総合労働会館
理事長 浅野 育二

新年あけましておめでとうございます。

日頃より、北九州総合労働会館（通称：真鶴会館）の事業運営に対して事業団体、労働団体をはじめ、会員の皆さま方に、ご支援とご協力いただいておりますことに感謝申し上げます。

当会館も40年目を迎え、建物や設備の老朽化に伴う改修工事が多くなってきている状況です。昨年は、消防設備の取り替えや雨漏りの補修等を実施しており、今後も必要な改修を行っていき、ご利用される皆さまが快適に過ごせるように対応してまいります。

また、当館2階の北九州市立泉台市民センターは、台風や集中豪雨時に避難場所となっていますが、現在大規模改修工事中であるため、当館の空き会議室をこれまで5回ほど活用されました。地域の皆さんにもお役立ていただいております。

年明け早々には、当館1,2階の九州労金「北九州東支店」の移転が予定されており、現在「財政問題等検討委員会」を立ち上げて鋭意議論を重ねています。今後も厳しい会館運営が想定されることから、引き続き安定的な会館運営となるように努めてまいります。

今年も、入居いただいております皆さまをはじめ、勤労者・市民の皆さまが安心して快適にご利用いただけますよう役職員一同、最大限の努力をして参る所存です。引き続き、真鶴会館に対するご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。



北九州地域労働者福祉協議会

会 長 幸 野 直 通
事務局 長 遠 藤 禎 幸
職 員 森 谷 尚 美

遠賀川地域労働者福祉協議会

会 長 熊 本 和 正
事務局 長 寒 竹 準 一
職 員 大 庭 菜 摘

筑紫・朝倉地域労働者福祉協議会

会 長 中 山 啓 一
事務局 長 原 山 豊
職 員 丸 山 よし子

南筑後地域労働者福祉協議会

会 長 丸 山 正 治
事務局 長 本 田 賢 治
職 員 浦 濱 明 美

京築・田川地域労働者福祉協議会

会 長 多 田 敏 明
事務局 長 安 藤 正 宣
職 員 藤 野 美 穂

福岡地域労働者福祉推進協議会

会 長 石 堂 高 大
事務局 長 桑 原 忠 志
職 員 桑 野 小代里

北筑後地域労働者福祉協議会

会 長 渡 辺 裕 二
事務局 長 西 田 修 三
職 員 良 永 礼 子

ライフサポートふくおか

事務局 長 木 村 洋 三
事務局 員 寺 山 早 苗

2020年度制度・政策要求 福岡県へ提出！

福岡県労福協は、2019年11月11日（月）、制度・政策改善に向けた取り組みとして「2020年度福岡県予算編成に向けた要請書」の「手交式」を行い、小川洋福岡県知事に提出しました。要請書は、直接、福岡県労福協西村芳樹理事長から小川知事へお渡しいたしました。

小川知事からは「要請書の内容については、予算編成の中でしっかりと検討させていただきたい。」とお言葉がありました。福岡県からの回答書は3月の予定です。



2019福岡県民 さわやかマラソン大会開催！

2019福岡県民さわやかマラソン大会が、2019年11月24日（日）、福岡市東区西戸崎の「海の中道海浜公園 特設コース」において開催されました。

当日は、あいにくの曇り空でありましたが、大会参加者も前年を上回る1,919組のエントリーがあり、ゲストランナーにコカ・コーラレッドスパークスより参加していただきました。途中、雨が降り出しましたが、天気は回復し無事終了することが出来ました。

大会は多くの家族・応援者からマラソン参加者へ熱い声援が「海の中道海浜公園 特設コース」に響き渡り、熱戦が繰り広げられました。

なお、今大会には、多くの地域労福協からのボランティアスタッフの皆さん、そして多くの企業・労働組合・団体等の協賛をいただき、運営を支えていただきましたことに厚く感謝申し上げます。



一般社団法人 福岡県労働者福祉協議会役員	理事長	西村芳樹	副理事長	梶原正実	副理事長	佐田正二	専務理事	藤吉眞二	理事	江上英憲	矢崎眞哉	坂本隆造	堤新吾	浅野斉二	原野新	遠藤禎幸	本藤賢治	寒竹準一	西田修三	桑原忠志	安藤正宣	田島亜矢子	山口健一	小森田紀子	
本年もよろしく																									
お願い申し上げます																									
令和二年 元旦																									



一般社団法人 福岡県労働者福祉協議会

〒812-0025 福岡市博多区店屋町6番5号 小松ビル2階

TEL 092-263-3141 FAX 092-263-3121

【ホームページ】 <http://fukuoka.rofuku.net/> 【メールアドレス】 roufuku@h8.dion.ne.jp

ろうふく協 NEWS
vol.164

発行 2020年1月15日
発行人 西村 芳樹
編集 藤吉 眞二